

国際交流

平成 9 年 9 月 30 日 創刊
平成 27 年 3 月 31 日 発行 (第 35 号)
二松学舎大学国際交流センター
〒102-8336 東京都千代田区三番町 6-16
Tel: 03-3261-5751

◆目次◆

<p>本学とミャンマー商業省との交流協定締結1周年記念講演会開催 … 1</p> <p>ヤンゴン経済大学(ミャンマー)との交流協定締結! … 1</p> <p>派遣留学修了報告</p> <p> 文学部4年 喜島 千晴(北京大学派遣) … 2</p> <p> 文学部4年 松田 春呼(中国文化大学派遣) … 2</p> <p> 文学部4年 間宮 美喜(中国文化大学派遣) … 3</p> <p>平成26年度秋 semester 交流会実施報告</p> <p> 交換留学生(中国・浙江工商大学)張 天恩 … 4</p> <p> 国際政治経済学部1年 合志 侑子 … 4</p> <p>附属柏高校生との交流会 … 5</p> <p> 交換留学生(中国・浙江工商大学)張 万挙</p>	<p>平成26年度第11回外国人留学生日本語スピーチコンテスト開催 … 6</p> <p>学長賞受賞スピーチ … 7</p> <p> 交換留学生(台湾・中国文化大学)江 昱瑩</p> <p>平成26年度国際交流年末懇親会報告 … 8</p> <p>平成27年度春 semester 派遣留学生紹介 … 8</p> <p>国際交流センターからのお知らせ … 8</p> <p> TOEFL-ITP(団体割引)の募集</p> <p> オーストラリア・韓国(中国・台湾)への派遣留学生募集説明会</p> <p> 夏期中国語・歴史文化研修/夏期オーストラリア語学研修募集説明会</p> <p> 編集後記</p>
--	--

本学とミャンマー商業省との交流協定締結1周年記念講演会開催

平成26年12月1日(月)ヤンゴン市内において、二松学舎大学(以下本学)とミャンマー商業省共催で、交流協定締結1周年を記念し人材育成をテーマとした講演会を開催しました。「Seminar on the Role of Educational Institution in Promoting HRD and Myanmar-Japan Cooperation」と題したこの講演会は、日・ミャンマー外交関係樹立60周年記念事業(在ミャンマー日本大使館主催)の一環として行われ、Win Myint(ウイン・ミン)商業大臣や在ミャンマー日本大使館秘書官らが出席されました。

本学学長渡辺和則教授の講演「日本における教育・人材育成の課題(Issues of education and human resources development in Japan)」を皮切りに、Prof: Dr.Tun Aung(タン・アウン)ヤンゴン経済大学副学長とDr.Maung

Aung(マウン・アウン)商業省アドバイザーによる講演が行われ、商業省職員、ヤンゴン経済大学学生、ヤンゴンTTI(Trade Training Institute)職員、日本企業社員など多くの聴衆を集めました。



講演会記念撮影

ヤンゴン経済大学(ミャンマー)との交流協定締結!

平成26年12月1日(月)ヤンゴン経済大学との交流協定を締結。この交流協定は、昨年ミャンマー商業省と締結した交流協定の一環として締結されたもので、渡辺学長とDr.Khin Naing Oo(キン・ナイン・ウー)学長の間で取り交わされました。

今後、(1)教育・研究交流 (2)出版物・学術的データ等の交換 (3)教員、職員及び学生の相互交流 (4)学術会議等の開催などを展開しながら、両大学間の更なる発展を目指します。

今回の出張には、渡辺和則学長のほか、東アジア学術総合研究所鈴木典之特命教授、大学改革推進課馬淵裕之

課長、国際交流センター事務室小西明徳室長が同行しました。



ヤンゴン経済大学と協定締結

平成25年度派遣留学修了報告

中国・北京大学

文学部4年 喜島 千晴



中国で過ごした1年間は、日本では味わうことのできない濃密な時間でした。日々の何気ない出来事からも刺激を受け、毎日少しずつ前進し、その積み重ねが大きな成長につながりました。

まず専門の学習の方面では、北京大学のレベルの高い授業に触れたことで、自分の学習の質が向上しました。私は対外漢語学院へは行かず、1年を通して中文系で学びました。授業に出始めたばかりのころは、すべて中国語で行われる授業についていくことができず、また、日本とは少し異なる授業形態に慣れないこともあり、時にはやはり対外漢語学院に行くべきだったのではと悩むこともありました。授業中わからない単語はすぐに調べ、授業に関係ある固有名詞などは授業前に発音を調べておいて、先生の話に上った時にはすぐ聞き取れるよう準備するなどして、早く授業に慣れようと努力しました。私が北京大学で出ている授業はどれも中国文学に関するもので、取り扱っている作品などは二松学舎大学の授業とほぼ同じでしたが、北京大学での授業ではその作品についてある程度知っていることが前提であり、その作品をどう読むか、背景にあるものは何かを考えるという内容が多くありました。授業の宿題としてレポートをいくつか書きましたが、その要求にその姿勢がよく表れていたように思います。レポートを書くことを通して、作品をよく理解し、疑問を見出し、それに対して自らの考えを確立して筋の通るように論述するという力を伸ばすことができました。その考える学習姿勢は、自習や読書の際にも自然と生きています。

語学の方面では、より早く中国語での会話に慣れようと、行ってからしばらくはできるだけ日本人との接触を避けて過ごしました。また毎回授業の合間には隣に座っている中国人学生に話しかけたり、サークルや交流会などに積極的に参加したりして、自ら交流の場を広げる努力をしました。努力の甲斐あり、前半期で北京大学の学生だけでなく、聴講生や北京大学内で仕事をしている人など多くの人と交流することができました。また、語学力の向上だけでなく、北京大学の学生以外の人たちの生活やその人たちの生き方などを知ることができました。

生活面では、人との交流を優先しようと決め、中国人や各国の留学生との交流の機会があれば、勉強よりもそちらを優先して参加しました。前学期から本科で勉強していたので、留学生との交流の機会は対外漢語学院の留学生ほど多くはありませんでしたが、ルームメイトや友達の紹介を通して各国の留学生と知り合うことができました。彼らと中国での生活について感じたことや、自国との違いなどを話し合うことで、異文化に対する視野

が広がり、また日本の文化についても多くの再発見がありました。旅行にも積極的に出かけ、1年間で天津、大同、西安、開封、洛陽、鄭州、杭州、蘇州、上海、南京、重慶、武漢、成都、九寨溝、合計14箇所を見て回りました。旅行では様々な街並みを見、その土地の食べ物を食べ、その場所で人々がどのように生活しているかを観察したり、各地で仏教寺院や古跡を見ました。すでに知っていた事物に関する新たな認識や知識を得たりすることができ、それぞれの旅行はすべて発見にあふれたとても充実したものとなりました。

日本にいるときは、ひたすらアルバイトや学校の勉強、活動に追われていましたが、留学中はそういったせわしない日常を離れ、自分についてゆっくり考えることができました。また留学中に会った人々や経験した出来事は、私の思考に大きな影響をもたらしました。今回留学に行く前に励まし支えてくださった友人や先生方、そして留学中に会ったすべての人に、心から感謝します。



四川の武侯祠、張飛像の前

台湾・中国文化大学

文学部4年 松田 春呼



台湾への留学を決めたのはもうすぐ4年生になる頃だった。外国で暮らしてみたい、自分の中国語を試してみたいという思いはずっとあったものの、卒業を1年延ばすこと等への不安があり、留学に行こうとはそれまで考えていなかった。しかし交換留学の応募期間が過ぎた頃、また再募集されるという話を聞き、「悩むより今しかできない価値あることをやろう」と一気に燃えて決意し、幸いにも留学に行けることとなった。

中国文化大学での日本人留学生を受け入れる環境はとても恵まれたものだった。日本語学科の学生が中国語を教えるチューター制度や、逆に日本人留学生が台湾学生に日本語を教える日本語コーナー等それぞれ週に何回か集まったりして、台湾学生と知り合える機会は予め用意されていた。一番心配していた寮生活も、台湾人と韓国人のルームメイトに恵まれ、毎日楽しく過ごす

ことができた。

そもそも私の留学の目的は、教科書通りの中国語から一歩進んで、自分らしい言葉で自然に話せるようになることだった。そして台湾へ留学に行くからには台湾らしい中国語を身につけようとも決めていて、台湾人の話し方をできるだけマネしようとした。私が今まで勉強してきた中国語と、台湾の中国語はかなり違いがあり、反り舌が完全に抜けているわけではない絶妙な発音や、平坦に流れるような喋り方はなかなか難しい。でも私はこの台湾式中国語がすぐ好きになったし、また台湾人の気質も大好きになった。開放的で素直で裏表のない人達に沢山出会い、彼らは気軽に友達を紹介してくれたり家に招いたりしてくれた。そんな開放的な台湾で過ごしていると、日本に足りない部分が見えたりもしたが逆に日本の良い所に気付くこともあり、いずれにしても日本を出てこそ感じられるものに気付いて本当に良かったと思う。

また文化大には中国大陸、香港、マカオ、韓国、マレーシア、ベトナム、ドイツ、フランス、ベルギー等各国から留学生が集まっていて、様々な国から来ている人達と出会えるのもとても嬉しいことだった。街で、それぞれの国のなまりがある中国語で会話していると好奇の目でジロジロ見られたのも良い思い出だ。そして何より、毎日楽しく過ごすことができたのは台湾の食べ物のおかげで、本当に美味しく体重が5kgも増えた。

そんな約1年間は信じられないほどあっという間に過ぎて行き、帰国の日が近づくともっと台湾にいたい、と強く思った。留学を終えた今では、中国語を使って台湾や日本の役に立つ仕事がしたいという目標を確信が持てるようになった。もしあの時留学を決断していなかったら…と思うとゾッとす。台湾留学での新鮮な喜びを忘れず、また台湾で暮らせるよう頑張ろうと思う。みなさん有難うございました。謝辞大家。



友人と（筆者中央下）

台湾・中国文化大学

文学部4年 間宮 美喜



みなさんこんにちは。わたしは中国文学科の必修科目で中国語を勉強するようになり、授業を熱心に教えてくれる先生方のおかげで中国語をもっと勉強したいと思うようになりました。

2年生のころ、中国か台湾で1年間勉強してみたいと思うようになり、3年生の秋ごろ、台湾の観光旅行雑誌を見て、台湾に留学に行きたいと強く願うようになりました。3年生

の冬、文化大に交換留学ができると電話で伝えられて飛び跳ねて喜んだのを覚えています。

去年の9月から今年の7月まで思い返してみるといろいろなことがありました。台湾に到着した初日、送迎車から見た通学路にたくさんのおしゃれな学生が歩いており、不思議の国に迷い込んだ気分でした。学校に着いてみると二松学舎大学よりも広くて趣のある校舎にますます興奮していました。ルームメイトの韓国の子は私より半年早く留学に来ていて、しっかり者で明るくて他の韓国の友達がよく部屋に遊びに来ていました。もうひとりのルームメイトは頼れるお姉さんのような英文科の台湾の子でした。

文化大の学年暦は秋学期が9月～1月中旬ごろまでで、冬休みが1月中旬～2月中旬まで、春学期が2月中旬から6月中旬ごろまで、夏休みが6月中旬から9月初旬までです。秋学期は毎日がとても楽しくてしかたなかったです。

中秋節には日本から友達が遊びに来てくれて、西門町に行ったりカフェめぐりをしたりしました。それ以降は、松田さんやドイツ人の友達と淡水の猫カフェに行ったり、昨年二松学舎大学に交換留学に来ていた先輩や松田さんたちと十份や平溪に行ったりしました。冬休みになると韓国のルームメイトは1年間の留学を終えて帰国してしまいました。その子がいなくなってしまって、春学期の間ずっとさみしかったです。

冬休みが終わり、台湾に戻ると、ホームシックと日本にいる友達と会いたくて少しカルチャーショック気味でした。新学期になり新しくルームメイトが入ってきたり、春にはルームメイトみんなで台中に旅行に行ったりしてだんだんとまた台湾の生活を楽しめるようになりました。夏休みにはルームメイトの嘉義の実家に泊まりに行き、阿里山に行ったり、有名な安平豆花を食べたりしました。

台湾の友達の家遊びに行き気が付いたことは、台湾の家は、マンションでも一軒家でも玄関に入るとすぐにリビングルームが広がっているということです。日本の家は、入ると廊下になっていて、家族がいるリビングを



友人と十份の天燈上げ（筆者：左）

の家のほうが家族と毎日顔を合わせることができていいと思いました。また、台湾の家は二重扉になっていたり、ベランダは鉄格子になっていたり安全面や防犯がしっかりとできていると感じました。

最後に、お世話になった先生方ありがとうございます。1年間文化大学で勉強できて本当に幸せでした。

平成26年度 秋セメスター交流会実施報告

二松学舎大学では、国際交流の一環で、留学生に日本の文化・自然・歴史等に触れてもらおうと、都内近郊へ小旅行に出かける留学生交流会を行っています。

本年度秋セメスターの留学生交流会は、平成26年10月26日（日）に実施され、秋から本学への留学が始まったばかりの交換留学生（北京大学・中国文化大学・浙江工商大学）を含む18名の外国人留学生と9名の日本人サポーター学生が参加しました。絶景の溪谷美を誇る昇仙峡（山梨県甲府市）や富士山親水公園（山梨県富士吉田市）など、富士山周辺を訪れました。

別の世界への旅 — 棧雲峡雨日記

交換留学生（中国・浙江工商大学） 張 天恩



光陰矢のごとし、あっという間に山梨日帰り旅行の時期がやってきました。わくわくしながら、知らない世界への旅に出ました。

秋空が晴れ渡っているうえに、空気も澄み渡って、さわやかな秋の日でした。天気恵まれて、気持ちすっきりしていて、みんなの顔にも微笑みが浮かんでいました。バスに乗って、旅が始まりました。バスの進行に伴って、窓外の景色が変わって、ガイドさんが外の景色について解説しました。小仏トンネルを通り抜けて、神奈川県に入ってから、一列に連なっている山々が目に映っていました。緑に富んでいる山々が秋の朝日に映えて、美しさが一層目立っていました。目は外の景色の変化に惹きつけられ、一刻もそこから離したくありませんでした。日差しがバスのフロントガラスから差し、車内が明るさに満ち溢れていて、同行の人々の顔が明るそうに見えました。

およそ2時間後、山梨県甲府市に入りました。甲府という名前は、甲斐の国の府から由来したことがガイドさんの解説で初めてわかりました。戦国時代から、甲斐は武田信玄の支配地で世間に広く知られ、今も、ブドウや桃の栽培、ワインの醸造の名所です。

甲府市を通りぬけて、間もなく昇仙峡に着きました。バスを降りると、昇仙峡の美しさに驚きました。静かな溪谷に、どこからか滝の音が響いてきました。その上、そびえた山々と奇岩絶壁からなる峡谷が絶妙な眺めをしています。そこで一時とどまって、うどん作り体験をしました。溪谷展望テラスから降りて、うどん作りの部屋に入りました。実家ではめったに台所に入らないであろう若者たちが、うどん屋さんの説明に従って、2人でペアを作ってうどん作りを始めました。好奇心に駆られて、みんなもとても楽しそうでした。

その後、各々が自分の作ったうどんを持って、昼ごはんを食べに行きました。私はこんな日本風の料理を食べ

たことがないので、ウキウキして食べました。うどん屋さんが名産のほうとう、焼き魚、焼き野菜でもてなしてくれました。いずれも、おいしくて仕方がありませんでした。みんなで一緒に食べて、すごく楽しい昼食でした。

昼食を済ませて、忍野八海に向かって出発しました。窓外の緑を眺めながら、忍野八海のことを考えていました。ガイドさんの解説で、忍野八海の池が人間の善悪を映すことができるということでした。意外にも、途中で富士山が見えました。雲がかかっていた富士山の美しさに心を奪われて、深い感動を覚えました。一瞬、ちらりと見えただけとはいえ、非常に幸せだと思いました。

忍野八海は世界各国の観光客で賑やかでした。底が見



うどん作り体験

えるほど透き通った湖のほとりに、日本風の小屋が静かに立っていました。全く日本庭園らしい様子でした。短い時間ですが、秋の忍野八海の美しさを満喫しました。

本当に楽しい日帰り旅行でした。このチャンスを与えてくれた国際交流センターに感謝の気持ちでいっぱいです。また、いつかこのような旅行があることを望んでいます。

山梨日帰り旅行

国際政治経済学部1年 合志 侑子



国際交流サポーターになったきっかけは、入学後、サポーターの案内があり、留学生と知り合えるということでサポーターに参加しました。春セメではチューター制度やランチを一緒に食べるという企画に何度か参加していたこともあり、何人かの

人とは顔を合わせていました。それに加え、新しい人と

知り合えるということでも楽しみでした。

今回の旅行はほうとう作りから始まり、富士山レーダードーム、世界遺産にも登録されている忍野八海を回るというコースです。山梨へ行く途中、高速道路からは紅葉し始めた木々や高尾山・富士山などを見ることができました。バスの中では自己紹介やガイドさんの話を聞いたり、留学生と話をしていたりしていたのでバスに乗っていることを苦に感じなかったです。ガイドさんは、甲州弁をいくつか教えてくださいました。ある留学生の女の子はそれを全部メモに取り、一日中使っていたことが印象に残っています。留学生の学ぶ姿勢に私自身とても勉強になりました。

ほうとう作りでは、二人一組でうどんを作っていました。生まれて初めてうどん作りをしたので、とても良い経験がすることができました。そして何より楽しかったです。

富士山レーダードーム館では、山頂付近の寒さを体感できるコーナーがあり、約マイナス20℃の寒さを感じて

きました。本当に寒かったです。

忍野八海は世界遺産に登録されている場所です。晴れていたら富士山がきれいに見える場所ですが、この日はあいにく午後から曇り空になってしまい、忍野八海から富士山を見ることはできませんでした。しかし、食べ物やお土産を買ったり写真を撮ったりして、忍野八海を十分に味わってきました。

今回の旅行に参加した全員で日本の秋を満喫し、今までよりも深く交流できたことは、とても良い思い出です。これからも積極的に参加していきたいです。



忍野八海にて（筆者：右）

附属柏高校生との交流会を実施しました

平成26年11月27日（木）、附属柏高校生との交歓交流会が実施され、同高1年の生徒と本学在籍留学生10名が交流を行いました。毎年実施しているこの交流会は、高校生にとっては、外国の文化や風習への関心を高め、外国を身近に感じることができる良い機会であり、また留学生にとっては、日本への理解をさらに深めるとともに、日本語で自国の文化を紹介する貴重な場となっています。

交換留学生（中国・浙江工商大学） 張 万拳



今回の交流会に参加できて、限りなくうれしかったです。高校生のみんなに中国での私の高校生活を例にして、日本の高校生活との違いを紹介しました。私の紹介より、みんなからの質問の方がもっと面白かったと思います。特に、中国で一番美しいところはどこか、また、一番美味しい食べ物は何かという質問に答えるのは、なかなか難しいことです。なぜかという、中国は地域が広く、民族も多く、観光地や料理に対する考え方は地域によって違っており、どこが一番美しい、何が一番美味しいという質問の答えは統一ではないからです。

男子生徒のひとりが日本のJ-リーグのチームを勧めてくださって、とてもうれしかったです。私が大好きなスポーツはサッカーですから、今回の日本に留学するチャンスを生かし、アジアで最高のレベルに立つ日本サッカーについて勉強できることを期待しております。

日本の食べ物で好きなものは何ですかという質問におにぎりと答えました。さまざまな味があり、とてもおいしく、また便利です。中国にも、おにぎりのような、おいしくて同時に便利な食べ物があればいいですね。

私は心から、みんなが中国に留学や観光し、中国のことをもっと多く知り、これを通して中日両国の青年が互いに深く理解し、いい友達になってほしいと思います。確かに中国より日本はより住みやすいため、日本で長く暮らした後、中国に帰りたくない人もいますが、時が流れるにつれ中国は段々良くなり、日本のような住みやすい環境を作り上げると信じています。



笑顔で生徒の質問に答える張万拳さん

平成 26 年 度 第 11 回 外 国 人 留 学 生



出場した留学生、審査員の先生方



平成26年12月6日(土)、九段キャンパス1号館中洲記念講堂にて、第11回外国人留学生日本語スピーチコンテストが開催されました。今回は、海外協定校からの交換留学生7名を含めた、中国・台湾・韓国・バングラデシュからの留学生12名が出場。日頃の学習の成果を披露し、全員が自分自身で考えたスピーチ内容を、的確に聴衆に伝えることができました。

最優秀賞である学長賞に選ばれたのは、台湾からの交換留学生の江 昱瑩さんです。タイトルは「一期一会で終わらせない」。2位の「父母会長賞」に張 輝さん、3位の「国際交流センター長賞」に張 天恩さんと張 万挙さんの2名が選ばれました。また、印象的なスピーチを

行った発表者に対して授与される「審査員特別賞」が、エムディ ナジュル イスラムさん、金 スルギさんの2名に授与されました。

12名の外国人留学生が異国の地で切磋琢磨し学業に励む中、準備して臨んだスピーチコンテスト。今年度は、近年で最多の出場者数であり、また国際交流サポーターの日本人学生が当日の運営を手伝ってくれたこともあり、例年以上の盛り上がりを見せました。

発表者は、このコンテストの為に、幾度もスピーチ原稿を書き直し、発表練習を繰り返し行ってきました。多くの方々に聴いてもらえることが、留学生のさらなる力を引き出すことに繋がったことと思います。



◇学長賞

「一期一会で終わらせない」
交換留学(台湾・中国文化大学)
江 昱瑩



◇父母会賞受賞

「日本で過ごした3年間」
国際政治経済学部 国際政治経済学科2年
張 輝



◇国際交流センター長賞

「綾瀬駅の風景」
交換留学(中国・浙江工商大学)
張 天恩



◇審査員特別賞

「日本人と英語と世界」
国際政治経済学部 国際政治経済学科1年
エムディ ナジュル イスラム



「中日酒文化について」

交換留学(中国・浙江工商大学)
張 万挙



◇審査員特別賞

「子どもと一緒にスカイツリーを
建てています。」

国際政治経済学部 国際政治経済学科1年
金 スルギ

日本語スピーチコンテスト開催

学長賞受賞スピーチ 「一期一会で終わらせない」

交換留学生（台湾・中国文化大学） 江 昱瑩

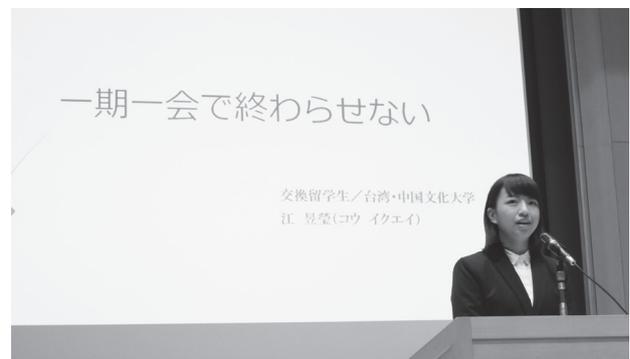
みなさんは旅行中に友達を作ったことがありますか。私は何回かありました。その中で、一番印象的な思い出をこの場を借りて語らせていただきたいと思います。

台湾にいた時、放課後に、アルバイト先の最寄り駅で、地下鉄の切符の買い方に困っている女性を見つけました。大きな荷物を傍に置いて、ガイドブックを片手に持って、券売機のスクリーン画面をじっと見つめていました。どうやら台湾人ではないようです。外国で1人していると心細いだろうと思い、その女性の顔を見て日本人だと判断をして、日本語で話かけてみました。「お手伝いしましょうか？」と、勇気を出してそう言いました。するとその女性は「このホテルまで行きたいんです。」と言いました。そこまで行くには電車で折り返すことになりますが、アルバイトまでにはまだ時間に余裕があったので、学校の隣の駅にあるホテルまで送ろうと思いました。一緒に地下鉄に乗って、いろんな話をして、すぐ仲良くなりました。それが、私たちの出会いでした。そこで、明日もし時間が空いているのなら案内しますよ、と私がその女性を誘い、その翌日に、観光地だけでなく、あえて観光客の知らない場所、いわゆる穴場を案内しました。台湾人しか知らないB級グルメや、日本語の通じないナイトマーケットなど、一緒に見て回って、一緒にグルメを堪能して、充実した一日を過ごしました。たった一日で、深い絆が生まれた気がしました。女性は自分の携帯電話番号と住所を教えてくれて、「仙台に来たら連絡してね。」と、とても親切に言ってくれました。

そして9月がやってきて、念願だった交換留学が始まりました。留学するとすぐに仙台へ遊びに行きました。女性は日本三景の松島や、きれいな湖と滝のある蔵王山や、伊達政宗の円通院などを案内してくれました。萩の月や、牛タンなど、定番の名物も食べたし、日本家庭料理の定番の肉じゃがや、山形県名物のはらこ飯や、もってのほかという名前の菊料理を一緒に作ってくれました。本格的な和室に泊まったのが初めてで、日本の家庭料理を作ったのも今までにない経験だったので、私にとっては、本当に夢のような素晴らしい体験でした。おかげで本場ならではの名物のおいしさを、満喫しました。

振り返ってみると、もし春に台湾で出会わなければ、二度とその女性と会うことはなかったでしょう。こういうことを思うたび、縁というのは本当に不思議なものだと思います。予測できないし、欲すれば出会うことができるとも限らないからです。一秒前に全く想像がつかないことが、次の瞬間に起きるかもしれません。森信三の言葉で「人は一生のうち、出会うべき人に必ず出会える。しかも一瞬遅すぎず、一瞬早すぎず。」という言葉があります。確かに、もしあの日、私が早めにアルバイト先に着いたら、または地下鉄でなく、バスでアルバイト先へ行こうとしたら、きっとその女性には出会えなかったのでしょうか。そんな予測不可能な毎日を楽しむことは、生活の醍醐味でもあります。

二松学舎大学の方がこうおっしゃいました。「大切にすれば太い糸になり、放っておけばやがて切れてしまうのが縁です。」その言葉を聞いて、縁を大事にする決意がさらに強まりました。もし縁を大事にしなければその出会いは一期一会になってしまうでしょう。出会いは、一期一会だけで終わらないでほしいです。



堂々とスピーチする江昱瑩さん



表彰式にて渡辺学長と

平成26年度国際交流年末懇親会を開催

12月6日(土)、九段校舎13階多目的ホールにて、国際交流年末懇親会が行われました。当日は、留学生や関係教職員をはじめ、父母会役員、国際交流サポーターの日本人学生たちの総勢68名が集い、賑やかな懇親会となりました。渡辺学長からご挨拶を頂き、続けて木村父母会会長による乾杯のご発声で開会。途中、同日開催されたスピーチコンテストの授賞式も行われ、出場した留学生達に暖かい拍手がおくられました。その後、交換留学生、今年度で卒業・修了予定の留学生、国際交流センター長からのご挨拶があり、盛況のうちに幕を下ろしました。今回も父母会のご援助により盛大に実施できましたことを、この場を借りて厚く御礼を申し上げます。来年も多くの方々のご参加をお待ちしています。



平成27年度春セメスター派遣留学生紹介

「二松学舎大学交換留学に関する規程」に基づく、海外協定校への1年間の派遣留学です。留学のできる協定校は全部で6校(中国・北京大学、韓国・成均館大学校、台湾・中国文化大学、オーストラリア・シドニー工科大学、中国・浙江工商大学、ハンガリー・エトヴェシュ・ロラード大学)あります。協定校によって、応募期間や資格、協定校への授業料の支払い等、派遣条件がそれぞれ異なるので、詳細は「海外留学の手引き2015」を参照ください。

平成27年度派遣留学生(平成27年2月～平成28年1月)

◆オーストラリア・シドニー工科大学

国際政治経済学部国際政治経済学科3年 野澤 翔

◆韓国・成均館大学校

文学部中国文学科 1年 松川 千夏



留学許可書授与式
左から山崎副学長、野澤さん、松川さん、渡辺学長

国際交流センターからのお知らせ

◆団体割引で受験！TOEFLの募集スタート

詳細は随時掲示します。

申込期間 4月1日(水)～4月23日(木) 実施日 5月16日(土)

TOEFL-ITP試験は、正規TOEFLに比べ、約1/3の受験料で受験でき、また正規試験と難易度が同程度であるため、将来海外留学を考えている方、自分の現在の語学力がどの程度なのか知りたい方、正規試験受験前の腕試しを考えている方に最適です。ぜひ受験してみましょう。

◆オーストラリア・韓国への派遣留学生募集説明会

日程 4月15日(水)、16日(木)、22日(水)、23日(木) 昼休み 場所 九段キャンパス

◆夏期 中国語・歴史文化研修募集説明会

日程 5月8日(金)、14日(木)、21日(木) 昼休み 場所 九段キャンパス

◆夏期 オーストラリア語学研修募集説明会

日程 5月13日(水)、15日(金)、20日(水) 昼休み 場所 九段キャンパス

編集後記

◇今年度の日本語スピーチコンテストは、近年で最多の12名の留学生が参加し、見ごたえのあるスピーチばかりで、審査員の先生方も頭を悩ませていました。当日は教職員、父母会役員の皆様をはじめ、多くの方々にご観覧頂きました。この場を借りて御礼申し上げます。

◇2月末に、2人の派遣留学生が韓国、オーストラリアに旅立ちました。留学の楽しさ、辛さを経験して、来年の帰国時にはさらに成長した姿を見せてくれることでしょう。

◇本誌へのご意見・ご感想をお寄せください。

E-mail: icenter1@nishogakusha-u.ac.jp